

キャリアプランニングを受講してみて、普段の授業では学べない様々なことを体験できた。特に、授業の終盤に行った制作実習を振り返ることで、「映像制作」について私なりに考えてみたいと思う。

まずは、シナリオ制作の段階。皆がお茶大について思うことをそれぞれメモ紙に書き留めて、それをシナリオ班の二人がまとめていく。皆が思いついた大量のメモを取捨選択し、つなぎあわせて一つのシナリオを作る作業は実に大変そうで、五分という制限がとても厳しく感じられた。シナリオ班の二人は、出来上がったシナリオを班全員に見せ、さらに意見を乞うことで、何度も変更を加えていった。二人だけでストーリーを作っているのではなく、皆で作っていきこうとする強い気持ちを感じ取ることができた。

次は、撮影の段階。授業だけでは時間が足りないと判断され、授業前の昼休みから全員集合で撮影が始まった。ここでも、カメラ班・演技班だけが活動するわけではなく、各班からも撮影の方法や、音源の採り方など、さまざまな意見が出され、工夫を凝らしながら撮影は進んでいった。また、撮影中も皆でカメラの小さな画面を覗き込んで映像を確認して、納得のいくカットが取れるまで何度も撮り直しを行った。

最後は、編集の段階。私は編集班の担当であった。パソコンソフトで今まで撮影したものをカットしてつなぎあわせ、一通り流しただけで、これまで皆ががんばってきたという想いがすごく伝わってきた。そこで私は改めて「編集する」という最後の大事な仕事に対する責任を感じた。授業時間内だけでは編集は終わらず、別に時間をとって作業を続けたが、効果音や音楽など細かなところにこだわりだすと更に編集時間は長くなった。しかし、中途半端にすると班員の皆に申し訳ないし、自分でも納得がいかないのもう一人の編集との作業は深夜にまで及ぶこともあった。編集の間、別の班の人も手伝いに来てくれたり、編集のアイデアを出してくれたりしたことで、さらによりよい作品に仕上げることができたと思う。

この実習を通して、「映像制作」とは、やはり皆との共同作業による最高傑作であると思う。班員それぞれが自分に与えられた役割に責任を持ち、さらに自分の役割だけで終わるのではなく、常に皆と意見を交わし、よりよいものを作り上げようとする意識を各人が持って作業をすすめることで、よい作品を完成させることができるのだということを、この実習で実感することができた。これからもチームワークを大切に、様々な場面で皆と協力し、よりよいものを完成させられるように頑張っていきたい。